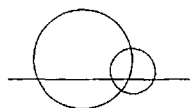


〈展示会〉



神戸資料展示会・講演会を企画して

東亜同文書院大学記念センター 山口恵里子
豊橋研究支援課

愛知大学東亜同文書院大学記念センター／オープン・リサーチ・センターでは、文部科学省の補助金を得て2006年度より5ヵ年間、全国を回って展示会・講演会を開催していますが、横浜・東京・弘前・福岡に引き続き、今年は神戸で11月2日から4日にわたり開催しました。

テーマは、「孫文―神戸、長崎そして東亜同文書院、愛知大学―」として、孫文にスポットをあてました。

当記念センターは、孫文関係史資料を所蔵していることから、孫文と神戸、長崎における孫文の果たした足跡と役割も浮かび上がらせ、今日の視点から再評価することを目的にプロジェクト化し、近くには孫文記念館もあることから、資料提供も視野に入れ、神戸を開催場所としました。

会場はJR三宮駅からポートルライナーで10分、「市民広場」駅下車すぐの神戸国際会議場を前年度に予約していました。

2009年5月孫文記念館を訪問し、館長の安井三吉氏に「孫文と神戸」について講演会講師の依頼をすると同時に、孫文関係資料の借用をお願いしました。帰路、神戸国際会議場に初めて出向き、3階の展示会場・レセプションホール、講演会会場・国際会議室を下見しながら、市街から離れたこの広いイベント会場で一般の人を呼び込むことができるのか、少し不安を感じながら担当者と打合せをおこないました。

どのような魅力ある企画をすればどれだけの集客が可能なのか、大学が所蔵する限られた史資料

の中で何に興味を抱いてもらえるか、近隣の孫文記念館から何をどのように借用するか、などについて検討を重ねました。

後援団体は、開催地である兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会、(財)孫中山記念館、読売新聞大阪本社、本学関係団体は(財)霞山会、愛知大学同窓会の合計6団体から協力を得て、特に本学同窓会の兵庫支部総会、西日本地区支部長会議も神戸国際会議場で3日の講演会に合わせて開催していただき、神戸近隣の支部長を通して一人でも多くの来場のお願いをしました。

夏休み前には、九州市立大学大学院教授横山宏章氏から「孫文と長崎」について講演の快諾をいただき、早速ポスター・チラシを作成して情宣活動を始めました。

9月に入ると、メンバーは具体的に展示をどのように公開するか、テーマや講演内容を視点に入れ、過去の展示内容を分析しながら具体化していききました。展示レイアウトは、レセプションホール(20M×10M)のカマボコ型会場を大きく3つに分割。展示史資料は、パーテーションの寸法や会場個々の展示品を活かせる方法を試行錯誤しながら選択し、本学が所蔵する主な展示物は、写真を撮り解説を加えて展示図録を作成してより解りやすくしました。

最初のコーナーは、「愛知大学孫文史資料」をテーマとし、孫文を支えた書院の山田良政・純三郎兄弟を中心に写真パネルや書などを選択。新たに本学所蔵の貴重な資料の中から孫文に関係する

写真を探し、「蒋介石を囲んでの集合写真」・「遊ぶ山田純三郎、戴季陶、陳其美」・「孫文先生逝世三十周年記念祭」・「孫文逝去の家にて」・「孫文と梅屋庄吉写真、孫文胸像」の写真パネルを作成しました。特に孫文書の「山田良政先生墓碑」(掛軸)を中心に配置し、展示ケースには、「孫文訃報電報」や「土屋文明の短歌」などを入れ、計31点を準備。また、入り口の広い壁面には、孫文の日本と世界の移動地図のパネル2枚を当記念センター展示室から取り外して持参しました。

次の「孫文記念館史資料」コーナーでは、孫文記念館の紹介パネルを作成し、孫文記念館からパネルのデータを予めお借りして、展示に必要なパネル計15点を選択。内2点の「朝野をあげた歓迎」と「孫文最後の来日経路」のパネルは、本学で内容を一部修正して作成し、残り13点は開催日の前日に借用に出向くことになりました。このコーナーにはパーテーション17枚を入れ、コの字型の3面を作り、記念センター長の挨拶パネルも含めて計16点を展示しました。

第3コーナーは、「東亜同文書院から愛知大学へ」をテーマに、特に「書院時代の指導者たち」や学生の「大旅行」をポイントに資料パネルなど計35点を選び出し、見ばえのする東亜同文書院校舎のタペストリーも大学史展示室から取り外して加えました。

出口からロビーまでの長い通路には、創成期の群像を中心としたイーゼルパネル32脚を設置。展示室横のロビーでは、当記念センター制作のDVD(東亜同文書院から愛知大学の歩み-21世紀にはばたく真の国際人の育成)を常時放映して、大学広報の役割も果たしました。

受け付けには、記念センター刊行物の展示図録、記念報、ブックレットやオープン・リサーチ・センター成果物の展示・販売コーナーも設け、当記念センターの活動の理解を高めました。

10月、設営業者と具体的な展示方法について打合せのため、神戸国際会議場に出向きましたが、

事前に業者から平面図、パネルの大きさ、展示ケースのサイズ、スポットライトの数など備品を確認した上、こちらで予め検討した内容を作成して打合せに臨んだことで、順調に看板の内容や会場レイアウト案ができました。この展示公開プロジェクト事業も5回目となり、試行錯誤しながら実行してきたことが生かされていることを実感しました。

こうした展示物は、参加者メンバーで一つひとつ梱包し、3個の大型Boxに納めてチャーター便に乗せ、搬入から搬出までを皆で協力しておこない、会場設営は、開催日の前日から出張者で実施しました。まず、レイアウト試案通りにパーテーションを入れ、ガラスケース5台も設置。展示数からワイヤーの本数・掛ける位置を割り出し、照明(アームスポット)28台もセット。写真パネルや掛軸を取り付けると、ゆったりとした見栄えのする展示室に生まれ変わりました。

3日の講演会は、外部からの2名の講師に加えて藤田佳久記念センター長の「東亜同文書院とそのあゆみ・大旅行」と武井義和ポストドクターの「孫文と東亜同文書院・愛知大学」の講演もあり、展示内容をより理解することができたと思います。

集客の不安をよそに3日間で述べ250名の来訪者があり、東亜同文書院や孫文に話が弾み、改めてこのプロジェクトのファン層の厚さと魅力を肌で感じ、開催の目的を果たすことができました。

来場者のアンケート結果では、「全体的に多くの展示物が上手に配置されており、導線も良かった。」と展示についてお褒めのことばもありました。神戸在住の方からは、「孫文と神戸の係わりについて理解ができ、有意義な企画であった。」と開催趣旨が伝わりました。関西や神戸の大学院生や留学生からは、「日中関係史など研究しており参加したが、辛亥革命を指導した孫文の直筆の書や山田兄弟資料が印象深かった。」と記載されていました。東亜同文書院卒業生からは、「学

籍簿や成績簿など貴重な資料を終戦時の困難を乗り越えて日本に持ち帰ったのは感銘深い。」と企画の喜びの声が届きました。本学の卒業生は、「書院生の中国での活躍を知り、日中関係史や書院の戦前のことをもっと知りたくなった。」など多くの感想をいただきました。

今回も厳しい予算の折、企画から実行まで行き

る事は全て手づくりで行うことを目標に展示会・講演会を実施しましたが、読売新聞や地元新聞に記事として掲載されたことや孫文記念館の貴重な資料をお借りでき、展示内容が充実したことも集客にプラスになりました。プロジェクトメンバー全員が汗を流しただけの成果を実感した展示会でした。



愛知大学東亜同文書院大学の 神戸資料展示会・講演会

孫文 — 神戸、長崎そして東亜同文書院・愛知大学 —

当記念センターは、これまで各地で東亜同文書院のあゆみとそれにかかわる講演会を行って来たが、今回神戸で実施するにあたり、当記念センターにも孫文関係のコレクションがあるため、孫文と関わり深い神戸や長崎における孫文の果たした足跡と役割も浮かび上がらせ、今日の視点から再評価してみたい。

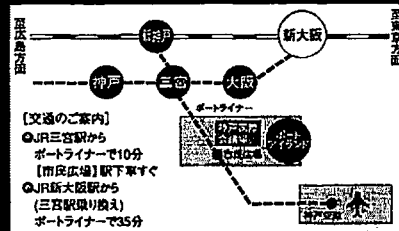
展示期間 2009年11月2日(月)～4日(水)

場所 神戸国際会議場 3階レセプションホール
時間 10:00～18:00

講演会 2009年11月3日(火)

会場 神戸国際会議場 3階国際会議室
時間 13:00～17:00 **定員** 240名

- ① 藤田佳久氏 愛知大学文学部東洋学専攻長・愛知大学東亜同文書院記念センター長
「東亜同文書院とそのあゆみ・大旅行」
- ② 安井三吉氏 孫文記念館館長
「孫文と神戸」
- ③ 横山安章氏 北九州市立大学大学院教授
「孫文と長崎」
- ④ 武井義和氏 愛知大学東亜同文書院大学記念センター 学芸スタッフ
「孫文と東亜同文書院・愛知大学」



入場無料 どなたでも自由にご参加ください。

- 主催/愛知大学東亜同文書院大学記念センター/オープン・リサーチ・センター
- 後援/兵庫県教育委員会/神戸市教育委員会/(財)孫中山記念会/読売新聞大阪本社/
(財)露山会/愛知大学同窓会

お問い合わせ 愛知大学東亜同文書院大学記念センター
 〒441-8522 愛知県豊橋市可憐町1-1 TEL. (0532) 47-4139 FAX. (0532) 47-4196 E-mailアドレス tshien@ml.aichi-u.ac.jp

